

永年にわたる建築展覧会・建築講演会・建築出版を通じての 建築文化の向上と発展への貢献

遠藤 信行 殿

遠藤信行氏は、1989年にTOTO株式会社（当時は東陶機器株式会社）に入社し、その4年前より始動していたギャラリー・間の活動を補完・拡充すべく創設されたTOTO出版の立ち上げメンバーの一人である。

ギャラリー・間とTOTO出版の活動及びそれらを連携させた建築文化推進事業は、建築・デザインの意義を社会的に啓蒙するのみならず、四半世紀にわたる継続性と事業の質は極めて高い水準で維持されており、評価し得るものであり、同氏の果たした役割は多大であると言える。

まず、1985年に発足したギャラリー・間は、開館以降、国内外の建築・デザインに関わる多くの展覧会を催している。2013年1月開催の「ここに建築は、可能か 第13回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展 日本館帰国展」で143回を数えている。展覧会は作品の展示と共に出展者の講演会を合わせて行うほか、ギャラリーの大学・専門学校での授業利用を推奨するなど、広範な活動を展開している。

加えて、ギャラリー・間の大きな特徴として、建築家の選定と展示方法がある。大建築家のみを招聘するだけでなく、将来が嘱望される若手建築家の展覧会を積極的に催し、多くの若手建築家の励みとなっている点。グローバルな視点を持ち続け、海外の建築家を早くから招聘し、建築界に海外の建築家を紹介する起点となっている点。毎回、出展者がギャラリー・間の空間に独自性の高い展示デザイン即ち「個展」方式の開催を行い、出展者の哲学・思想・概念が空間デザインに反映し高い水準の展示が具現されている点。が挙げられる。

次に、1989年から活動を始めたTOTO出版は、ギャラリー・間と連携した書籍（出展者の作品集）の他に、大きな特徴として独自の出版を展開している。海外の建築家の中でも日本にあまり紹介されてこなかった建築家に焦点をあてている点。日本人建築家の作品集の多くは外国語に翻訳され、海外への紹介に努めている点。「建築MAP」シリーズにおいて建築関係者と共に一般の読者にも建築への関心を喚起し、海外旅行へ出かける人々の案内書として高い評価を得ている点。専門書でありながら読者が購入しやすい価格設定の中で高い質の確保が目指されている点が挙げられる。

ギャラリー・間とTOTO出版の事業は一私企業であるTOTO株式会社による各々独立した活動でありながら両者の連携は、展覧会、講演会、出版の三つの形式を展開し、より奥深い文化活動を創生している。各々を主導し、かつ統括する立場にあった同氏の手腕なくしては実現し得なかったと言え、現在も更なる発展を目指して活動を継続しており、高く評価するものである。

同氏の建築・デザイン界全般を見渡す真摯な洞察力、時代を見据えるジャーナリストとしての的確な発想力と豊かな経験、そして日本の建築文化の向上を希求する熱意等を基盤とした永年にわたる建築展覧会、建築講演会、建築出版を通して建築文化の向上と発展への多大な貢献は、日本建築学会文化賞にふさわしい業績である。

よって、ここに日本建築学会文化賞を贈るものである。